

## APFED 第2フェーズ第1回全体会合の概要

2005年11月21～22日に、インドネシア・ボゴール市にて開催されたアジア太平洋環境開発フォーラム第2フェーズ(APFED )第1回全体会合における主な協議結果は、以下のとおり。

なお、APFED の議長として、川口順子元外務大臣/元環境大臣が選出された。

### 1. APFEDII全体の事業計画

APFEDの最終報告書で提案されている3つの活動 - ポリシーダイアログ、知識イニシアティブ、APFEDショーケースプロジェクト - の具体的な実施方針について、「2.」以下のとおり合意が得られた。

APFEDの提言を着実に実施に移していくためには、関係国際機関、アジアの主要なステークホルダーとパートナーシップを組んで実施していくことが重要であると合意された。

APFEDIIの3つの活動を連携させ、全体として、その効果的な運用を図ることが重要であるとの指摘があった。

APFEDの提言を実施していく上で、NetRes(Network Research Institute)のネットワークを積極的に活用していくことの重要性が指摘された。

フレンズ・オブ・APFEDなど、APFEDと緊密に連携した個人や組織を NetRes の外でも、作っていくことが重要であり、そのためにAPFEDのホームページの更新などを通じて、継続的に情報を提供していくことの重要性が指摘された。

### 2. APFEDポリシーダイアログ(政策対話)

今後のポリシーダイアログのトピックとして、APFED事務局から5つのトピック(資源の効率的利用(3R)、環境管理と企業の社会的責任、気候変動影響の緩和、統合的生態系保全、環境政策の地域調和)の提案があった。

上記以外にも勘案すべきトピック、各国や関係国際機関が認識する問題点、ダイアログ実施上の留意点などについて、幅広く意見交換が行われた。

これらの議論を踏まえ、提案されたトピックについて、選択基準に照らして長所と短所を整理して評価を行い、実施に関する具体的な計画を APFED メンバーへ提示することが確認された。

APFED事務局は、2006年にアジア太平洋地域で開催が予定されている主な会議を紹介し、どのような場でポリシーダイアログを開催するのが適当であるか意見交換が行われた。

APFED事務局は、ポリシーダイアログを連携して開催するにふさわしい会議について、引き続き情報収集を行い、具体的な計画を進めていくことで合意が得られた。

### 3. APFEDショーケースプロジェクト

APFEDIIにおける持続可能な開発に向けた「実施メカニズム」としてのショーケースプロジェクトの必要性が再確認された。

ショーケースプロジェクトのテストケースとして「スリランカ・エコビレッジプロジェクトにおけるコミュニティ参加による廃棄物管理(実施主体:サルボダヤ)」の実施が歓迎された。

ショーケースプロジェクトは、APFED 最終報告書に盛り込まれた精神や原則に適うものが適切であること、また、様々なステークホルダーのパートナーシップに基づいてショーケースプロジェクトが実施されることが重要との認識が示された。

「APFEDショーケース・パネル」や「APFEDショーケース・ファシリティ」の設置を含め、ショーケースプロジェクトの運営方法について基本的に合意された。

草の根の活動を支援することが重要との認識から、ショーケースプロジェクトの募集方法について、APFED が運営可能な範囲で、草の根の活動を実施している団体などからも広く応募ができるような仕組みを再検討することとなった。

ショーケースプロジェクトの結果を適切に評価するための仕組みを今後、考慮していくことが必要との指摘があった。また、ショーケースプロジェクトの結果を普及する仕組みとして、ワークショップの開催などに加え、IT の活用を十分に考慮することが指摘された。

### 4. APFED知識イニシアティブ

APFED知識イニシアティブは、持続可能な開発に向けた様々な経験から得られる知識や知恵を集め、地域内で共有化するための「知識管理」メカニズムとして機能していくことの重要性が確認された。

持続可能な開発に向けた経験を広範かつ効率的に収集するため、優良事例を対象とした表彰制度を創設することが確認された。

表彰の最終的な決定を行う機関として、「APFED表彰委員会」を設置することなど、表彰制度の運営方法について基本的に合意された。

実施に際しては、今回の議論をふまえたAPFED表彰制度ガイドラインを作成した上で、優良事例の募集を開始することが確認された。

APFEDIで構築された優良政策事例データベースと、RISPO(革新的戦略政策オプションに関する研究)で構築された優良事例のデータベースを統合化し、データベースの質と量を改善し、より有効なものとする事が確認された。